

三国湊の路

現代アートと文学のアジール

2009年8月29日(土)～9月13日(日)

佐合道子 × 哥川

アーティスト SAGO MICHIKO

江戸時代の遊女・俳人

土方大 × 三好達治

アーティスト HIJIKATA DAI

昭和を代表する漂白の詩人

様々な人・モノが行き交い、包みこんできた湊町三国は、「全国にして異色のある文学のまち」とも言われてきました。2009年夏、若手アーティスト達が、三国湊に縁のある文芸人やその作品にインスピレーションをうけ、風土や人情を浴びて作品を制作し、三国湊の路に展示します。江戸時代から変わらぬ路筋が、現代アートと文学のアジールとして浮かび上がります。

会期 2009年8月29日(土)～9月13日(日)

屋外展示 佐合道子＝旧岸名家
土方大＝松ヶ下西光寺左向かい空き地

* 福井県坂南市三国町旧市街地(北本町・南本町) 界隈
* 期間中、常時展示しています
* 9月5日～6日には「三国北前ストリーム」イベントが開催されています

問い合わせ NPO 法人三国湊魅力づくりPJ 担当：吉村

tel: 0776-81-3921 (三国湊座内：水曜定休)

info@mikuni-minato.jp www.mikuni-minato.jp

[主催] NPO 法人三国湊魅力づくりPJ

[共催] 三国北前ストリーム実行委員会

[特別協賛] Asahi アサヒビール株式会社

[助成] Asahi アサヒビール芸術文化財団



アクセスや三国の情報など、お気軽にお問い合わせください。ウェブサイトにも掲載いたしました。

哥川 KASEN

1700年代の遊女であり、越前を代表する女流俳人。「哥川」とは俳号であり、源氏名は「泊瀬川(もしくは長谷川)」、本名「ぎん」。出村の荒町屋七左衛門の抱え遊女で、享保10年の「御巡見控」に「滝谷、出村 町数十二、家屋三百七十 遊女八十五人 流行長谷川」とある。また、「続近世畸人伝」にも哥川の名がある。哥川は荒町屋の遊女を退身した後、自ら「豊田屋」という新しい店の主人となり、遊女屋を経営。その後、豊田屋を二代目長谷川に譲り、滝谷寺の境内に庵を結び、世にその剃髪を伝え、滝谷尼と称し、隠棲する。謎が多い哥川ではあるが、現在、哥川の俳句は116句あり、その中間違いなく哥川のものと思われるのが約60句くらいとされている。俳人としての哥川は、加賀の千代をはじめ、名古屋の蓮阿坊白尼や時節庵八亀など、他国の俳人との交流もあり、遊女から身を引く三年前には江戸に百日あまり滞在し、俳諧・点茶・琴・香・花などをもって交流している。基本的に三国の遊女には高い教養が求められるものの、哥川においては俳諧という群を抜いて優れたものが存在した。(哥川の俳諧と書師は、永正寺第十七世の永言(俳号・巴浪)である)。

三好達治 MIYOSHI TATSUJI

1900年～1964年。大阪府出身の詩人。昭和19年より5年間、三国湊にその居を定め、自身、三国を「わが心のふるさと」と呼ぶほど親しんでいた。その間は待ち望んだ最愛の人(萩原朝太郎の妹アイ)との生活、そして別れを経験するなど、彼の人生においても波乱に満ちた時期だったとも言えるが、それが故に、この時期に生み出された「故郷の花」「砂の砦」などの詩集は、彼の豊かな感性、知性を見事に表現した代表作とも言われている。現在でも三国湊には東尋坊や住居跡に三好達治の歌碑が建てられ、また三国高校や大野高校の校歌を作詞するなど、県内の至るところでその足跡は残されている。(あそびーのフクイウェブサイトより転載)

プロフィール

PROFILE

佐合道子

SAGO MICHIKO

- 1984 三重県生まれ
- 2009 金沢美術工芸大学工芸科陶磁専攻 卒業
同大学美術工芸研究科陶磁専攻修士課程 在学
- 2006 金沢21世紀美術館
一日比野克彦 明後日朝顔プロジェクト
サポートスタッフ/明後日朝顔新聞社特派員
- 2008 New Car Seat Design Project(帯人テクロス)
九谷焼デザインコンペティション 入賞

自分と自分の作品についてひとこと

焼き物を学び始めてから「なぜ作るのか」「何のために作るのか」をよく考えるようになった。そして、いくつかきっかけになることがあり、自分の死や人生について考えるようになった。そうしたら、死ぬのが怖くなった。痛みが伴うかもとか、意識が終わるとかそんなことではなく、存在がなくなること。普通に生きて普通に死んでいたら自分の死後、親族や友達に覚えられていたとしても長くてもせいぜい5-60年だろう…。そんなの嫌だと思った。私はとっっても寂しがりで、無視されたり、忘れられることが一番怖い。私は死後最低でも2-300年間はなるべく多くの人に私が生きていたことを、存在があったことを覚えていてほしい。そのために作る、というより作ることを選んだ。

土方大

HIJIKATA DAI

- 1989 愛知県名古屋生まれ
- 2004 愛知県旭丘高校 美術科入学
- 2004 旭美展 入賞 愛知県立美術館ギャラリー H 室
- 2007 金沢市立金沢美術工芸大学 彫刻科入学
現在 同大学在籍 彫刻3年 ミクストメディア専攻
- 2008 展覧 出品 愛知県立美術館ギャラリー J 室
- 2008 KACOA(金沢美大アート&デザインショップ)企画運営
DDI 特別賞受賞 北国新聞社社長賞
- 2009 展覧 出品 愛知県立美術館ギャラリー J 室

自分と自分の作品についてひとこと

普段作品を作る時の動力にしているのが感情の起伏になります。何か自分を揺さぶる出来事に対しその時の自分の思いを切り取り作品に写し取ります。作品は自分の分身であり、我が子のようなものであり、何処かしら自分の要素が入った作品が多いです。具象的な作品ではなくデフォルメを加えた抽象的な形態なもの記憶からのイメージなので鮮明ではなくそこから美しいと思えるラインを試行錯誤しながら掘り出しています。